票

題名

障害年金の「線維筋痛症」、「脳脊髄液減少症」、「慢性疲労症候群」に係る認定事例の送付について

-	厚生労働	省年金局事	業管理課給	付事業室
	室長	補佐	専門官	担当
		翻	後斯	(<u>E</u>)

爱

発行日	平成24年3月26日	回答期限	平 成	; 年	月 日	業務区分	平常分・	法 改 分
		連絡	•	質	問	• 要	求	

現在「線維筋痛症」、「脳脊髄液減少症」、「慢性疲労症候群」、「化学物質過敏症」 については「第18節 その他の疾患による障害」にて認定を行っていますが、障害の程 度を認定する際に参考となる検査所見はほとんどなく障害の状態の判定に苦慮していると ころです。

このため各疾患の認定について、指診や認定基準の作成を求められているところですが、 これらの疾患については調査研究が行われているところであり、疾患としての定義や有効 な治療法等について確立しておらず、現段階での認定基準の作成は難しいことから、これ まで認定した事例を参考に障害等級別に各疾患の認定事例を作成しましたので、障害の程 度を認定する際の参考としてご活用ください。

なお、「化学物質過敏症」については、作成中ですので追って提供します。

受付日	平成	年	月	日	回答	日	平成	年	月	Ħ				日本生	F金	機構	
												录暗	グ	レープ長		参事役	担当者
		回	答		-	意	見										
		_	ļ,mag				,,,				A.A.						
			. 			. .											
														w		Y	
									受作	日	平成	之 年	Ξ.	月日	П	受理者	

線維筋痛症 1級の認定事例

本人の申立ての場合は、「診療器で確認」または「

、それを聴取した年月日を記入してください。「本人の中立て」のどちらかを〇で囲み、

0

N

L

Die

審

の

状

麒

は

診療録に基づいてわかる範囲で配入してくださ

飾

近位指節間関節(PIP)

(母指では指節間関節)

40

40

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

40

左

эГ					章	害	ص ص	₩	t f	ķ	(2	平成	24	年	2月1	5 日現	症)						
お 願					運頭	カの			右	. ,							左						
(1)		部		位	2015	alox:		可動域(か		<u> </u>		i運動	$\overline{}$			可動域(タ		_	関節				1
) 関					種		強直肢位	自動可動域		正常	からみ		著波	消失	強直肢位		他動可動域	正常	がや今		著減	消失	
節	_	ļ			屈			100	120	<u> </u>		<u>o</u>			ļ	100	120		-	0	ļ		
可	(D)	肩	関	飾	伸	展		10	10			Ö			ļ	10	10			0			
敢	関				内	転転		90	100			00			ļ	90	100		-	0			
よ	節	-			外屈	曲		110	110	┼	├	0				110	110		-	00		<u> </u>	l
	可	肘	嫚	節	伸	展			1 6	 -		8		- -		0	- ' ö			0			
則	動 域				背	屈		20	60	╂		ŏ	\dashv		<u> </u>	10	50		+	70			ĺ
Ξ	及	手	関	飾	紫	屈		40	50			ŏ				40	50			-6			
기	ぴ				屈	曲		30	60	}	 -		0			30	60		 		0		ROSPANIA
7	運 動			**	伸	展		0	ō				Ö			O	O				ō	3	値放
ŧ	筋	股	関	節	内	転		Ō	0				0			0	0				Ó		<u> </u>
į.	カ				外	眃		10	20	1			0			10	20				O		7 解析 2 脉神道
니		Daile.	 BB	独	屈	曲		40	60			0				40	60			0			enk Han
5		膝	関	節	伸	展		0	0			0				0	0			0			
記入してくださ		足	関	飾	背	屈		0	10]			0			0	10				0		1
		/E	[36)	ISII	底	屈		10	30				0			10	30				0		
<u>, (</u>	3)								右								左						l
		un a	+ E 12. ₹	र साम स्मान	TIP)		上肢長	上腕囲前	腕囲 下	技長	人	退囲	下版	題	上肢長	上版田前	施囲 下肚	支長	大服	B 田	下朋	9.	ĺ
		맫	支長及で	ア四茂	žfi	1																	
<u> </u>	-						- en	CIR	cm	cin		CIB,		CIU	cm	* 	cm	CIII		cm	<u> </u>	cm	l
	(19	i							[人	でうまく	できる	場合に	は …	• • • • •	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *		- T				_	\	
							い状態	で	一人	ででき	(B-P)	や不自	由な場	合には	‡ ······		O 43		する	-	-		
	B		判	断し	てくだ	ださ	<i>د</i> ١.		一人	でできる	5が非2	常に不	自由な	場合に	こは ・・・・・・				欄にくだ			11	
1									上一人	で全くて	きない	∖摄合[こは・						` ''	<u> </u>	D	ノ	
1	常		日	常生	右		左	\neg		白	常	生活	動作			右		左		l			
	牛	a つま			紙が引き:	<u>動</u> 作 抜けない		×		X	m	片足で	立つ						X	十	×		
		b 握	ర	(丸め	た週刊誌	が引き抜	けない程度)	×		X	n	座る	Œ	座・権	すわり・あく	でら・脚なげた	۲L)			L			
	活	c タオル	を絞る	(水を	きれる程	皮)		両手	×						のような姿勢					ΔX		1	l
	1661.	d ひもを	 結ぶ					尚手	×		٥	深くお	じぎ (投敬礼	し)をする	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				×			1
	動	e ಕ೮ೡ	食事をする					Δ>	<	×	þ	歩く((景内)							×			
	作	1 顔を洗	j	(顔に	手のひら	をつける)	Δ>	<	ΔX	q	歩く((屋外)							×			
		g 用便の	処置をする	(ズボ	ンの前の	ところに	.手をやる)	<u>\</u> \		ΔX	r	立ち上	がる	ア支持		支持があれば	でき ウ支持	かかわ	ばでき	ⅎ	支持があ	50T	
	の	h 用便の			ところに					ΔX					できる 	るがやや不良に	E 27	神器に	こ不自由		しできれ	<u>~~</u>	:
	膧	i 上次の			りシャツ			两手	Δ×		\$	階段を	登る		ナリなし イ でいる	手すりがあれる きるがやや不り		トリ があ	らればでき と不自由	· 🕣	手すりだ てもでき	5あっ	1
İ	1-24-	j 上衣の					ンをとめる)	両手	X							6 0 W. L. C. U.	3M 3//	- 7 F 151 N	- PE E				
ĺ	害	k ズボン			ような姿				<u>×</u> .		t	階段を	降りる	ア 手すです	すりなし イ でいる	手すりがあれ! きるがやや不!			わればでき こ不自由	• ⊕	手すり2 てもでも	があっ きない	
	~	1 靴下を			ような姿!			阿手	×	11× 4= 40	40.465									-=- 61			ļ
	の	1 1		での起立		未持り次	- 1	閉眼での		変行の	状態					5 日見近	状・他覚所	兄双	ひ 便 盤	C开見			
	程	衡		『能であ				ア まっすぐり							.							I	
		機能		安定で			;	イ 多少転倒し							r.								
<u> </u>	度]		可能で		T 114- 4-16-1		ウ 転倒あるい	いは若しくよろ	めいて、	歩行を	中断せさ	るを得れ		ET 00 (4: 00 44)	DIT 01.5	7111 787						
	② 補使	1 上 3 枚	肢補装』 (÷			装具(左 杖(左	. 右) [6	常時(起	床より刻	寝まで	?)使用		/r.	配の使用状	光について、	くわしく記	ハレ	(7 V.		- 1	ļ
	助用	(5) in				步 行			イ ときどき仏						リクライ	ニング軍ル	すでのみ	全介	助でタ	/出で	できる	.	
	用状	7 ~						Į,	ク 使用せす					1	77、外出	後の級另際	感は強く、	翌日	i के C	以水区	こ至る	٥.	
┝	具況	(3	具体的に									-		-									
2	① その他の精神・身体の障害の状態																						
	食語障害がある場合は該当するものを1つ〇で囲んでください。																						
	不安感、抑うつ気分は強い。																						
	, 24.	J., J., J.													4		M家族は理解。			人口和	62-76 -\$-1	, l	
														- 1	扶 3 日		は理解できる。					• ' '	
															越		は柱所ででの/ 聞いても理解*			ティさん	-#-∀ '0	ļ	
															- H	The brief of the Wall	5/2/4	-	- •				
2			$ \top$	(補助用	具を使	用しなし	\状態で判	断してくだる	۲u.)								 					{	
] 3	見症時	の日常生	活活							_	4 M											}	
		及び労働! いしてくださ		食事、	排泄、	香替え	など全て	において	介助が必	嬖。兌	動不	'미.											
L'																							
€3			44	7E30+				,															
1,	予 必ず22.8	してくださ		垷時点	では改	害する	見込みな	· U.														j	
			- 1																				
63	.095		*												 							\neg	

上記のとおり、診断します。

在

所

平成 24年 2月 15日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院

地 〇〇市〇〇町〇〇

診療担当科名 'リウマチ科

医師氏名 〇 〇 〇 〇

印

<線維筋痛症 1級>

(付 記)

〇 本例は、初診日が「平成22年8月15日」であるので、障害認定日は1年6月後の平成24年2月15日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年2月15日現症のもので、障害認定日(平成24年2月15日)以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

■認 定----

障害の程度は、全身の激しい痛みが酷く、食事、排泄など日常生活動作のすべてにおいて介助が必要となっており、常時車椅子を使用している。また、線維筋痛症の重症度分類試案では「ステージV」の評価であることから「日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの」に該当すると認められるので、1級9号と認定される。

線維筋痛症 2級の認定事例

本人の申立ての「診療線で確認」

の場合は、

、それを聴取した年月日を記入してください。「本人の中立で」のどちらかを〇で囲み、

0

(母指では指筋間関節)

左

٥

90

本人の障響の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

				障	Į.	¥ () ¥	犬!	護	(平	成 24	. 年	2月	3 日現						
(مد ا		: 4.4	運り)かの	BBA	-vac: 6-4 / 6	右		BB AK YO	Stale Arter and		FR19 Adv	-rsil Lik (左		Biri Ade	100000	tele .L.	
	部		位	和	類		可動域(月 自動可動域		T-W-	契即 連や砂 半	動筋力			可動域(角(廷) (他動可動場	75.46		運動		314 Hz
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	屈	曲	う気は上が交行と	160	180	JE W) 3793	MX	5銀四.成21公	180	180	C TEW	7-700	0	看班	何久
00				伸	展	}	30	30		4	5 †			30	30	 		Ö	 	
₩	厚	娲	節	内内	- 転		10	10	 	ll	5 †	· 		10	10	 	-	Ö	 	
関				外	転		90	90			51	·		90	90	†		ŏ	} <u>-</u>	
飾	<u> </u>			屈	#		120	120			5	 		120	120	1	1	ŏ		ᅱ
動	肘	関	節	伸	展		0	0	Í	††- - -	51			10	10	†		Ö	 	
域				背	屈		60	70	1		5	 	<u> </u>	80	80	 	┪	Ò	1	
及	手	関	節	维	屈		60	70	†	1	5†			90	90	1		Ö		
ũ				屈	曲		60	80.			5			90	90			0		~
運動	,	6 11	**	伸	展		10	10	1	1	5			10	10			Ö	j1	<u>-</u>
筋	股	関	節	内	転		5	5	1	1	51	\		5	5	1	1	0		{
为	ļ			外	転		30	40	1	1	51	 -		40	40	7	j	Ö		
i	Pale	ng	6/s	屈	曲		100	100)			100	100			o		\neg
	膝	関	e r	伸	展		0	0)			0	0			0	<u> </u>	
		88	đ/c	背	屈		30	30		1)			30	30			0		
	足	関	節	底	屈		60	60]		5			60	60]		0		
(18)								右							左					,,,,
						上肢長	上腕囲前	腕囲 下原	支 長	大腿	下厂	退加	上肢長	上院团市	顶进 下	技長	大服	囲	下腿	囲
	四肢	灭	び四肢	赳							_						\			
						em	ćm	cm	CIB	<u> </u>	cm	cm	cn	ст	cm	CIII		cm	<u> </u>	cm
19								L一Y.	でうまく	できる場合	なは・	· · · · · ·			··[O] ~					< 1
		補	助用圖	を使	用し,	ない状態	で	-	でできっ	የ ትዮትን	自由なり	合に	ż				する			
B	1		断し				-	\ -\	でできる	るが非常に	不自由	2場合	には				欄に			11
"				- '		- 0			_						٠ ا ل	ノて	くだ	av	٠ '	リー
常		<u> </u>	常生	活	1771-	W	—————————————————————————————————————		左	C 2/1/V 1/4		1				1	右	-	左	
,,	a つまさ			紙が引き	動(1 0		$\frac{\mathcal{L}}{\Delta \times}$	- H	きで立つ	- A	生涯	1 99J 1F			$\frac{\Lambda}{\Delta \times}$		$\frac{\mathcal{L}}{\Delta \times}$,—
生	a つまで b 握					(程度) 友けない程度)			$\frac{\Delta\Delta}{\Delta}$								<u> </u>	l		
活	c タオル			きれる程	,	X17'4 V (E(X.)				n 🕮	5 (i			ぐら・脚なげ }を持続する)	だし)	ŀ		$\Delta \times$		
114	d 052		(3/2	CAPOLE			両手	<u> </u>		0 22	(14 l' 45)		L) をする			 		ΔX		
動	e & C T 1		 ನ				0/		ΔX		(() ()	(ML w.)	u, e, o	,		_		$\frac{\Delta \Delta}{\Delta}$		\dashv
14-	f 顔を洗			手のひら	をつける	5)	- 1 - 62		ΔC		(屋外)				***	 		$\Delta \times$		
作	g 用便の欠					ご手をやる)			ΔC		_	T- #	内なし イ		754 A)#4	Hotelar de la	いまでき			
の	h 用便のタ			ところに			ŎZ		Δ	r 立	ら上がる		かなし っ できる	るがやや不自	te 02	が非常に	不自由	-	してきな	iv
	i 上衣のネ	的脱	(かぶ	りシャツ	を育て胆	보ぐ)	両手	ΘΔ				7 X-	ナりなし イ	平すりがあれ	+7° (1) 15.	ተከለርታ	かばでき		平すりが	Stro
障) 上衣の	 遊脱	(ワイ	シャツを	着てボタ	ソンをとめる)		ΔΟ		\s %5!	なを登る		でいる	きるがやや不		が非常に	不自由	_	てもでき	
審	k ズボンの	の者脱	(どの	ような姿	勢でも。	tv)	两手	ÓΔ				アチ	ナりなし イ	子すりがあれ	ir Ø.	すりがお	わばでも	b 22.	平寸りが	580
725	」 *化下を用	使く	(どの	ような姿	沙でも	tv)	両手	ΟΔ		1 761	とを除りる		でいる	きるがやや不			不自由		てもでき	
の	江	1 別別	見での起立	・立位(保持の特	大態 2	開眼での	直線10m	歩行の	状態			-	3 自覚症	状・他覚所	f見及	び検査	E所見	,	
	衡	7	可能であ	る。		1	ア まっすぐは	*き通す。					1							
程	機		不安定で			İ	イ 多少転倒し		りよろめ	いたりする	がどうにか	歩き通) .							
度	能		- 久企 、 不可能で			1	ウ 転倒あるい						ļ							- 1
<u> </u>	1 1-1	肢補装			下肢補		· 右)						記の使用状	況について、	くわしく記	入して	てくださ	۲۷.		
補使	③ 杖	(-	4	松葉	杖(左	· 右) [常時(起		接まで)	を 用	Ì							c 10	_
助用	5 車			6	歩 行	車	1.	イ ときどき使	用				壁外でい 使う。	ノも使用し	ノている。	座内	CIMB	生、当	ドタリ	2
│ 用状 長況	7 7 C	の他 【体的に	~				Ļ	ウ 使用せず	:				エン。							
	J				440		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					_								
(2) Z	の他の精	神・身	r体の障害	琴の状	態							}	倉語障害が	ある場合は	波当するもの	を1つ	〇で餌	んで	くださ	U. 1
													, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,							
全身(の疼痛に	さいな	まれては	30、i	抑うつ	気分も伴	ハ、精神的	りには重度	を のス	トレス	を自覚		~ 1 B	常会話が誰が	聞いても理解	できる	_			
			ことがで	できず、	、睡眠	不足の状	態か続いて	ており、抗	不安	薬や睡	民薬も		籴		が家族は理解		-	人は理が	解できた	26%
	している。	0										1	扶 3 日	常会話が家族	は理解できる	が、他	人は理想	解でき	ない。	1
1X 🕁 /												i	rex		聞いても理解					-
ייביאנ																				
1X-J							なし アノだき	(L),)												
		- T	(補助用	具を使	用しな	い状態で判	知ったアンドロ	,												
(2) 現症時(の日常生活									, .,		. .	د اعداد ومعود	u4 → → ! '	L SSERME	m*"		,		
(2) 現症時(動能力)	及び労働	能力							ている	3。一拳	手一投	足に	痛みを自	覚するため	り、労働も	困難	である	3.		
② 現症時 動能力) (必ず記)		能力							ている	3。一拳	手一投 	足に	痛みを自	覚するため)、労働も	困難	である	3.		
② 現症時(動能力) (必ず記入	及び労働	能力い)	全身の	疼痛の	ため、	日常生活	は著しく	阻害され ⁻			手一投	:足に 	痛みを自	覚するため)、労働も	困難	である	3. 		
② 現症時(動能力) (必ず記入 ② 予	及び労働が くしてくださ 	能力い)	全身の	疼痛の	ため、		は著しく	阻害され ⁻			手一投 	定に 	痛みを自	覚するため)、労働も	困難	である 	5.		
② 現症時(動能力) (必ず記入 ② 予	及び労働	能力い)	全身の	疼痛の	ため、	日常生活	は著しく	阻害され ⁻			手一投 	:足に 	痛みを自	覚するため)、労働も	困難	である	ა		

上記のとおり、診断します。

平成 24年 2月6日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院

診療担当科名 リウマチ科

所 在 地 〇〇市〇〇町〇〇

医師氏名 〇 〇 〇 〇

卸

<線維筋痛症 2級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成22年7月31日」であるので、障害認定日は 1 年6月後の平成24年1月31日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年2月3日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「線維筋痛症」であるので、②、⑮、⑪、⑩、⑩、②、②、②欄は 必ず記載されていなければならない。

障害の程度は、激しい痛みが持続しているため、日常生活動作のほとんどが 一人でできてもやや不自由な場合、又は一人でできるが非常に不自由な場合と なっており、線維筋痛症の重症度分類試案の「ステージ皿」と評価されている が、全身に痛みが広がっていることから、「日常生活が著しい制限を受けるか、 又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの」に該当する と認められるので、2級15号と認定される。

線維筋痛症 3級の認定事例

本人の申立ての場合は、「診療器で確認」または「

「本人の中立て」のどちらかを〇で囲み、「本人の中立て」のどちらかを〇で囲み、

0

民年金

(母指では指節問関節)

#

80

100

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には配入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

100

				障	書	F 0	k C	犬	鰒	(平成	23	年	9月2	4 日現	症)						
· · · · · · · ·				運動	0			右	ī							左						
	部		位	-400 100	_ [可動域(1				「運動				可動域(វ				運動	筋力		
				種类		強旗肢位	自動可動域		城 正常	+	半減	著減	消失	強直肢位		他動可動域	正常	+	半波	著談	消失	
10	 			屈	曲		80	80		0	ļ. <u></u> .				135	135	ļ	10	ļ	<u> </u>		
00	屑	関	飾	伸	展		30	30			10.				45	45		0		ļ		
関				外	転転		0	0 60		<u> </u>	 				0	0		-	ļ			
節				屈	曲		60 140	140		-	10				90 145	90	응			├ -		
티	肘	及	飾	伸	展		0	140		18	┼	}			0	0	8			 -		
動域				背	屈		65	70	 	lŏ	+-				70	80	ŏ	┪		-	<u> </u>	
岌	手	岁	飾	故	屈		70	80		tŏ	 				65	80	<u> </u>		ļ			
び	}			屈	曲	-	45	110	╫		0			 -	50	110	 ~	╁	0			REFEREN
運		_		伸	展	******	0	Ö		 	18				0	0		-	Ö		<u>7</u>	伽北
動 筋 カ	股	踢	節	内	転		Ö	10		 -	Ιŏ				10	20	·		ö	 -		200
カ				外	転		Ö	0	{		18				15	25			ō			加州
			4-6-	屈	曲		70	120	+	_	Ō				125	135	-	0	<u> </u>			2脉的
	膝	奜	節	伸	展		Ö	0			1 ö				0	0		Tö				
		277	44	背	屈		20	20	<u> </u>	1	O				25	25	Ė	Ō	-			l
	足	関	節	底	屈		55	55			10				55	55		 	0			
(18)								右	i	·	نستسار	l 1				左						
-					Ì	上肢長	上腕囲前		肢長	大	腿囲	下服	囲	上肢長	上院团前		支長	大胆	退用	下版	20月	
	四肢	支長及	び四肢!	丑	İ					ļ								1				
					[en	cm	cm	cm	L	cm		СШ	CIR.	cm	cm	cm		CIR	L	cm	
(9												は …				ح ز0۱۰					$\overline{}$	
		24	附田區	た徳日	日1ナ	い状態	75		しででき	でもや	や不白	由な場	合にい			ΙΔΟΙ	当	7 3	5 記	号	1	
tes			断し				<i>,</i> ~			-			_			. `	下:	欄に	13 1	入		
Ħ		ייד.	BOIC	C \ /:		v· 。										1 (6	. T	くだ	żν	۰, ۰	JI	
常							·			できない	い場合					-1×; ~					_	
			常生				右		左			B	常	生活	動作			右		左		
生	aつまt	<u>'</u>	~~~~	紙が引き抜			04		<u> </u>	m	片足で	立つ	<u>:</u>					×		04	7	
	b 握 3					(けない程度)			0	n	座る	(Æ			でら・脚なげた	۲L)			Δ×		ł	
活	c タオル	を絞る	(水を	きれる程度	t) 		両手	<u>Q</u>						のような姿勢	を持続する) 							
動	d ひもを約						两手	0/					最敬礼)をする					<u>Ο</u> Δ			
293	e さじで1					·	<u></u>		<u></u>		歩く !								ΟΔ			
作	f 顔を洗			手のひらを			04		<u> </u>	q	歩く	(歴外)							<u>ΟΔ</u>			
_	g 用便の気			ンの前のと			- 04		0	r	立ち上	がる	ア 支持	なし (d) できる	支持があればっ るがやや不白!	でき ウ支打 a ろか		いばでき 不自由	×	支持がされてきた	わって ない	
の	h 用便の気			ところに手			04										,, ,,,,			0.00		
障	i 上次のオ		~~~~~~	りシャツを			両手	04		s	階段を	登る		rbal (1) civa	手すりがあれる きるがやや不!	ばで ウチ1 11日 ろか		さればでき に不自由	* =	季すりだ てもでは		
	j 上衣のネ					ンをとめる)		02 02														
害	k ズボンの			ような姿勢			阿手	0/		t	階段を	降りる		けりなし (ぞ	手すりがあれ きるがやや不	まで ウチす 自由 るか	トりがあ 「非常に	oればで: でお自由		手すりた てもでき		
o o	1 靴下を用			ような姿勢			両手			715-142		1										
(0)	-1-		限での起立		けいへい	1	・ 開眼での		n 79-13 v.	水水源				ļ:) 13 <i>J</i> L <i>t</i> tE	状・他覚所	死汉	い快か	生 / 贝克			
程	衡		可能であ			i	ア まっすぐり							.							1	
	機能		不安定で	-		- 1	イ 多少転倒し							r.							Į	
度			不可能で				ウ 転倒あるい	いは若しくよう	ろめいて、	歩行を	中断せさ	るを得れ		1 100 - 14-172-14-1	n 19 21 -	4 3 . 3 - 5'2'-						
②D 補使	1 上	肢補装 (吳			装具(左 杖(左		ア 常時(恵	こまよりす	上脚注 "	で)使用	l	1			くわしく記			_			
助用	5 車			6 歩	、茶	車	-μ/	/ ときどき			'4				壁や道具な	などにつか	まり	ながら	うつだ	こい歩	3	
用状	⑦ そ	の他						・ とこここ					 を									
異況	(_E	体的に	こ 壁なと	「をつた」	ハなカ	r5	ا							している。								
21) 70	の他の精	神・身	体の騒響	なの状態	ĝ								1		- · ·			_				
		., ~											1	は語障害が?	ある場合は智	食当するもの	を1つ	Oで 選	しんで	くださ	r.	
eger "Lu f"	10 111	白不车	帝 不空	்னம் ∌ ¤	ref m	tmスつを	分がある。														ı	
が用りたい	-0.0101:	31\×	(AEC 1115	4.75% ¥±	13207	344 J J XX.	いいいい							← 1 日		聞いても理解。						
													1			が家族は理解					311	
														懋		は理解できるが			呼でき	ない。		
														- 4 B1	客会話が誰が	聞いても理解"	できな	V.			- 1	
6 8		—	/4-6 D.L	(I) J. 14. c-	33	Valle dilli dilli	HE 12.0															
2) 現症時(の日常生活	表活	(相切用	典を使用	いなし	・仄駁で判	断してくださ	2610)													- 1	
	ひロ帝王が		痛みに	よりウナ	5 トか	なり~立代	、歩行バ	ランスが	糖く	医倒0	0危降	性が	ある.	、また、同	引じ姿勢な	保つこと	が難!	しいた	こめ		ŀ	
	してくださ			の労働に			۰ ۱۱٫۱۰ حد		···· ×+	. <i>ت</i> در بـ	, _ , _		ەنب بر.		24,30 C	.,., /		- v 1/0	/		J	
63						•																
(3) →		後	改藝す	るケーフ	えおお	るが. ம	には長期	化する場	合もお	える												
-	してくださ	1	小口り	w /	سرمي لسه	, w/J \ T	·~ :07KW	אנט כט.	,,,,, 00	ه ده د											j	
63														·····								
(4)		去																			- 1	

上記のとおり、診断します。

平成 23 年 10 月 6 日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院

診療担当科名 リウマチ科

所 在 地 〇〇市〇〇町〇〇

医師氏名 〇 〇 〇 〇

印

<線維筋痛症 3級>

(付 記)

- 本例は、初診日が「平成 22 年2月26日」であるので、障害認定日は 1 年6月後の平成23年8月26日となる。
 - この診断書の障害の状態は、平成 23年9月24日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

■認 定—

障害の程度は、腰臀部、両側肩甲帯部、一下肢に激しい痛みが出現しており、日常生活動作のほとんどが一人でできてもやや不自由な場合となっている。また、線維筋痛症の重症度分類試案の「ステージII」と評価されていることから、「労働が著しい制限を受けるか、又は労働に著しい制限を加えることを必要とする程度の障害を残すもの」に該当すると認められるので、3級12号と認定される。

脳脊髄液減少症 1級の認定事例

本人の申立ての場合は、それを聴取した年月日を記入してください。「診療録で確認」または「本人の申立て」のどちらかを〇で讃み、

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には配入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

国 民年金

		β	障		の		<u>状</u>		態		(平月	₹ 2	4 4	平 1 月	18	3 現症)						
	_			運動の				右	·							·	左						
١	部		位	1916 Vers		可動城					運動	-			可動城(<u>;</u>					運動			
				種類	強直肢位	自動可質	域他數	可動城	正常	やや液	半減	若波	消失	強直肢位	自動可動場	他動可屬	加坡 卫	E常	やで減	半減	春波	消失	
5			-	屈 曲	<u> </u>				ļ	ļ	ļ	ļi	ļ			ļ							
r Ø	眉	関節	断上	伸 展					ļ	ļ	ļ	ļ	ļ			<u> </u>		.			<u> </u>		
即開節	"-		Ľ	内 転		 			ļ	ļ	 -	ļ	ļ			ļ		بلر					
節				外 転					<u> </u>		ļ					<u> </u>	4	1					
n]	肘	関 6	新	屈 曲									ļ								<u> </u>		
動	μ,		~"	伸 展																			
城及	手	関節	m	背 屈							<u> </u>	<u></u>			<u> </u>	1							
及	,	120 12	۸٬	掌 屈																			
及び運			L	屈 曲						<u> </u>												〈	DOMESTIC
運動筋力	股	関 館	m	伸 展																			値数の
筋	IIX.		, [内転							<u>[</u>	<u> </u>											カですか
				外 転																			1勝強 2勝頓
:	膝		斯	屈 曲]	L							-244 7/2
	nac	(90) D	A1	伸 展			1																
	-	DE &	v/-	背屈							-			1									
	足	関節	節 -	底 屈							<u> </u>					1		<u> </u>					
18	\ <u></u>							右				····				7	王						
					上肢長	上腕囲	前腕团	下	支長	大腿	退囲	下馬	退囲	上肢長	上腕团市	加速曲	下肢:	臣	大胆	展	下版	租	
	四肢:	長及び[2	四肢囲	1									-										
						CIR	СП	1	cm		čm		cm	cm	cm	cm		cm		cm		cm	
<u> </u>						كلدب	<u> </u>			できる		12						201		200]			
`		사람 모두	65 69 •	±r.htecci →	F-1 - 11-40	-7 3								‡		(該	当	ት ጆ	記	身)	
				を使用した		C										- 1	を	下档	関に	: 記	λ		
B		刑断	「して	こくださ	υ' ₀			一人	にできる	5が非1	常に不	自由な	協合	こは ・・・・・・	•••••	١Δ×١	し	てく	だ	έV	١.		
常								一人	で全くて	きない	小場合	には・				۰۰[×] ۱	_					ノ	
if)		日常	生	活動(乍		右		左			Ξ	常	生活	動作			7	6		左		
生	aつまむ		(新聞紙	が引き抜けない	、程度)	1	$\overline{\times}$	1 2	ΔX	m	片足で	立つ						>	×		X		
	b 썙 る		(丸めた	週刊誌が引きむ	友けない程度)	1	7×	1	ΔX	n	座る	(16	座・椎	すわり・あく	ぐら・脚なげ	だし)				A > /			
活	c タオルを8	Żб	(水をき	れる程度)		両手		ΔX						のような姿勢			ì		•	ΔX		Ī	
nc.	d ひもを結り	,, ,,				両手		ΔX		0	深くお	こじぎ ((最敬礼	し)をする						×			
動	в さじで食料	をする				- /	XZ		$\overline{\times}$	p	歩く	(歷内)					\top			×			
作	ƒ 顔を洗う		(顔に手	のひらをつける	5)		$\overline{\times}$		\overline{AX}	q	歩く	(選外)								×			
,,,	g 用便の処置	ア をする	(ズボン	の前のところに	(手をやる)		ZX	7	ΔX	\top			ア支持	17r). 1	支持があれば	C-9x - 17	支持が	あわけ	fra	(A)	支持がる	har	
の	h 用便の処置	をする	(尻のと	ころに手をやる	5)		7×	7	X	r	立ち上	<i>-</i> 2010	(T)	できる	るがやや不良	pi ,	るが非	常に不	自由	U	もできた	280	
	: 上衣の着肌	ŧ	(かぶり	シャツを狩て店	ž ረ ')	両手		ΔX					7 364	トりなし イ	平すりがあれ	 ずで ウ	手士り	おあわ	ロチでき	A	季すりだ	i the	
障	j 上衣の着風	Ŕ	(ワイシ	ヤツを育てボタ	アンをとめる)	両手		ΔX		s	階段を	登る!		ev จั	きるがやや不		るが非	常に不	下自由	0	τις τις τ	きない	
害	k ズボンのオ	舰	(どのよ	うな姿勢でもよ	tv)	両手		ΔΧ					7 %	ナりなし イ	手すりがあれ	efr p	手すり	があわ	ルゲでき	<u> </u>	手すりだ	5200	
当	1 靴下を履く		(どのよ	うな姿勢でもよ	ttv)	両手	,	ΔX		t	階段を	終りる		ตั้งอั	きるがやや不		るが非				てもでも		
の	平 1			立位保持の状		別銀で	の直線	-						1	3 自覚症	状・他質	所見	及び	検査	所见.			
	4-	ア 可能			i	ア・まっす								-									
程	146.	・・・・・・・・・・・イ イ 不安				イ 多少転	M1.7 11	なったり	ን ቷ ኤአካ	レッナーカー	するがと	たちにか :	投金 浦っ	r.									
r#c	松		能であ		1 _) 転倒あ								·									
度 20	1	9 不可 補装具	HE CO.		<u>;</u> 装具(左		DA.ITAL	~ \ & ***	34.6	₩13 Œ	TW1 W. C	: @1E14		: 記の使用状況	ロセヘルブ	7 101 7	a \$27 %	17	1 15 3				
補使	3 杖(杖佐		(分常	時(起5	たより就	寝まで	で)使用	}	14.	90.00 DC/114/(1)(iic 51 · c)	(420)	. ,,,,,		\ /C C	. • .		l	
助用	⑤ 車椅			6 歩 行	車	, . ,	イと	きどき使	用				1										
用状	7 その						ウ使	用せず														l	
具況	(具体	は的に																					
2) 20	つ他の精神	·身体0	の障害	の状態											6 7 IB 6 11 1	i - ·		4				1	
														貫語輝書が:	ある場合は	変当する 4	らのを	100	つで囲	んでく	くださ	い。	
加索を生べ		中小的小学士	5代基生 1 5	衛 1、890	######################################	=a ++ 1 = .c	- 14km	7117	,														
				。長い闘病 ごしている		オ共に派	ダ笄し	CNE	٥,				l	. ←	常会話が誰が	聞いても思	解でき	ð.					1
U	امدادد	5. m/b/c			•								-	話 2 地	話による会話	が家族は現	解でき	きるが	、他人	(は理)	好でき!	\$41.	
													- 1	扶 3 日	常会話が家族	は理解でき	るが、	他人	、は理解	なできれ	ない。		
													1		常会話が謎が	聞いても寒	解でき	ない	٠,			J	
			A 2018																				
(2)			助用具	を使用しない	ハ状態で判	断してくだ	どさい。)															
	の日常生活: 及び労働能:		₩4-\ -	endomal.	- ₩(+ d	+1-761-+	不可能	77 J	トーウくちん	ح تبليد	¢-∕>et	क्टन	-	254786分25~	``+ <u>\$</u> \\$4#.**	5 to 7						ŀ	
	メいカ MD RE. してください		市土活	の中での作	rakio, E	いては	1.分割	/a.C.C	/J'ÿî	<u>ا</u> د (. 7 (15%)	C. 35	2 D	,尤到则是它人	いは自無(~ <i>ത</i> ∙മം						J	
														<u></u>									
0 <u> </u>		.	::/rc																			7	
予 (公式記)	後 してください		쓀																				
(20) FEA		<u> </u>																			_	_	
Ø																						一	
備	考	·																				- 1	
1		1																				- 1	

上記のとおり、診断します。

平成 24年 1月 18日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院 所 在 地 〇〇市〇〇町〇〇 診療担当科名 脳神経外科

医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

<脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症) 1級>

(付 記)

- 〇 本例は、初診日が「平成 22年6月15日」であるので、障害認定日は 1年6月後の平成 23年12月15日となる。
 - この診断書の障害の状態は、平成 24 年 1 月 18 日現症のもので、障害認定日以降 3 月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。
- 傷病は「脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症)」であるので、⑩、⑩、⑩、⑩、⑩ 欄は必ず記載されていなければならない。
- なお、の欄には主な症状を詳しく記載してもらうことが必須である。

■認 定——

障害の程度は、閉眼での起立・立位保持が不可能であり、開眼での直線 10m 歩行が困難である。また、全身の痛みが酷く心身共に疲弊しており、日常生活動作が一人で全くできない、又は一人でできるが非常に不自由な状態で、ほとんど介助を要する状態となっており、日中の大半を臥床して過ごしていることから、「日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの」に該当すると認められるので、1級9号と認定される。

脳脊髄液減少症 2級の認定事例

本人の申立ての場合は、それを聴取した年月日を記入してください。[診療録で確認]または「本人の申立て」のどちらかを○で囲み、

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

(母指では指節間関節)

左

:[障	咨	の		状		態		(平月	2 2	4. 4	年 1 月	18	日:	現症)						
3 1				運動の				<u></u>	<u> </u>								左						1
3	部		位	etas vice		可動場					運動		,		可動域			<u> </u>			筋力		
				種類	強直肢位	自動豆	動城	他動可數	域 正常	やや減	半減	著波	消失	強直肢位	自動可重	城他	動可動場	正常	やや波	半波	遊波	消失	1
5				屈曲	<u> </u>					ļ	ļ		ļ	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ļ			ļ					
յ Մ	層	関	飾	伸展	<u> </u>					ļ		ļ	}		<u> </u>				ļ <u>.</u>		ļ		l
	"-	15.0	-4-1-	内転				.			ļ	ļ	ļ			 -		ــــــ		<u> </u>	ļ	ļ	l
財節				外 転						ļ		<u> </u>			ļ				<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	ļ. <u> </u>	ı
罚	朋士	N.	節	屈曲							ļ	ļ	ļ			_		ļ		ļ		ļ	
動動	,,,		en):	伸展		ļ				ļ	<u> </u>					1				ļ <u>.</u>	<u> </u>		1
域	手	関	節	背屈		ļ		 			ļ	ļ	ļ		<u> </u>			ļ		ļ			
及び		124		掌 屈		<u> </u>				<u> </u>	<u> </u>				ļ			ļ		<u> </u>	<u> </u>		
. 運	•			屈 曲								<u></u>						ļ	ļ			<	NUMB
動	股	飓	飾	伸 展	ļ										ļ			ļ			ļ <u>.</u>	ļ	値状の 方ですか
筋筋	"	1,74		内転							<u> </u>	ļ			ļ			ļ		ļ	ļ	ļ	1腺溶曲
力				外 転					4				ļ					-					2膝伸展
<u>:</u>	쨡	関	節	屈 曲			2			ļ	 	ļ										<u> </u>	L
	//4	1267	#11*	伸 展					_	ļ	<u> </u>	<u> </u>						<u> </u>	L				Į
=	足	冕	飾	背屈				·		ļ	<u> </u>	ļ			ļ	[ļ		ļ	1		i
[_ ~_	1961	17/11	底 屈		<u> </u>		<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>					<u> </u>	<u> </u>		i
. 13								7									左						i
	ma t	n4 = T	7 vê ma bilat	700	上肢長	上腕	用 前	腕囲	F肢長	大	選囲	下胆	退囲	上肢長	上院团	前胞	田 下	技長	大胆	退囲	下月	退囲	ĺ
	四月	及長人	をび四肢!																				İ
							m	cm	CIB		cm		CIII	cm	cm		cm	CIR	<u>L</u> .	cm	L_	ÇIII.	
(19)								Γ	人でうまく	できる	場合に	は・・		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	(اسر د٥					$\overline{}$	
1	ļ	汯	a 助用層	を使用した	はい状態	きで		 	人ででき	ር ቴሎ	や不自	由な場	合には	±		··10.			する			1 1	
В				てくださ		. ~			•					- こは ・・・・・			1 8		機卡				
P		7	3 141 0	- 11-	• •			1									ין י	ノて	くだ	ð V	۰, ۰		
常					,		.			できない	が場合						×,		-			_	l
1 ,,,,				<u>活動</u>			右		左	<u> </u>		E	常	生活	動	乍			右	_ _	左		!
生	aつま	t		紙が引き抜けない 			04		<u> </u>	m	片足で	なつ						4	$\Delta \times$	L_	<u>></u>	<u> </u>	!
27"		る		た週刊誌が引き却	がけない程度		04		<u>,04</u>	n	座る	(Æ		まずわり・あ・ のトネム次針)			ΔX			
活	c タオル		(水を	きれる程度)		阿马		Ò						のような姿勢	211127	·		ļ					l
動	d ひもを			~~~~~~~~~~		阿马		Δ					(最敬利	し)をする						\overline{O}			ļ
393	e さじで	食事をで	ナる 				0/		$O\Delta$		歩く							ļ		Δ			i
作	f 顔を洗	5		手のひらをつける			04		<u>ΟΔ</u>	q	歩く	(壓外)								$\Delta \times$			
	g 用便の			ンの前のところに	こ手をやる)		04		<u>ΟΔ</u>	r	立ちよ	がる	ア支持		支持があれ るがややそ	ばでき	Ø.	控があれ が非常に	はでき	Ŧ	支持が	あって	
の	h 用便の	処置を		ところに手をやる			04		$O\Delta$					できる 	Q21-7-77	- ER 191		N. JE W IC	-40H		もでき	74,	
隨	i 上衣の			りシャツを着て邸		两月		<u> </u>		s	階段を	:登る			手すりがあ きるがやそ	ればで	O.	ナりがき	かればで: 不自由	₹ ∓	事すり)	があっ	
₹ 294	う 上衣の			シャツを着てボタ		[Δ						でいる 	20077	*C EN EN	- 0.	W 31 10 10	- 10 101		てもで	SATA.	
害	k ズボン			ような姿勢でもよ		两马	F 	<u> </u>		t	階段を	降りる			手すりがき		Ø£	すりがあ	ればで 不自由	き エ	平すり:	があっ	
	1 靴下を	假く	(どの	ような姿勢でもよ	たい) -	两马								でいる 	きるがやや						てもで	S.YTA,	
の	平	1 (7)	眼での起立	・立位保持の制	大條	2 669	そでの	直線10	m歩行σ)状態					3 自覚	症状	・他覚別	「見及	び検査	生所見	<u>.</u>		
#	衡	ア	可能であ	る。	-	ア まっ	ナぐ歩	き通す。							r=1±=44	w. 		1.12 1 11	 مدارة				
程	機	イ	不安定で	ある。		イ 多少	転倒し	そうになっ	たりよろめ	りいたり	するがと	うにか	歩き通っ	r.	回転性	いまし	いひが正	人では	即れて	. しぎ	つ。		
度	能	0	不可能で	ある。	() 医的	あるい	は答しくよ	ろめいて、	歩行を	中断七台	くるを得	ない。	į									
<u> </u>		技補数		2 下肢補									左	記の使用状	兄につい	۲, ۲	わしく節	入して	てくだ	さい。			
補使	3.村	t (4 松 葉		・ 右)		ア常時(約		北寝まで	で)使用	i		屋内は伝い	2000年	炭川	叶主に	南海	子な 位	带無し			
助用用状	⑤ 車			6 歩 行	堆		1 -	ひときどき						いる。	, 13×C1	1±/1	10 T-10	-1=10	J (1)	SC/TIJ (<i>-</i>		
具況		:の他 具体的	E				Ľ	ク 使用せ	79					. •									
				Arm arm all to state									\top										
(2) FO	の他の精	神・」	身体の障害	当の状態										言語障害が	ある場合	お該当	するもの	を1つ	○で 国	りんで	くださ	ا _{دنا}	
																						Ť	
				5.嘔吐、倦怠					困難、	耳鳴	りな	උග		~ 1 B	常会話が誰	が聞い	いても理解	できる					
多様な	ふ症状か	あり、	日中の当	#分以上は臥	床してい	る状態	5 C &	5る .						*	話による会					人社理	経でき	ない。	
														状っ R	常会話が第								
														AD:	州三的ルッ 常会話が翻					4F \ C	****		
													-	7 H	·,, and plates ββ	1491	· UALIN	- 0.4	•			1	
© 2		Т	(捕肋角	具を使用しな(ハ状態で率	断して	<i>(†:</i> ≥	(N _C)					<u> </u>	 -						-			
	の日常生	活活	\ 100 PF3 / 13	** = = >1110.01	- produce [,														ļ	
動能力	及び労働	能力	日常生	活において、	介助を勢	もし、ち	北出	も困難の	りため、	労働	前能力	はな	い。									1	
(必ず記入	してくださ	×い)																					
(2)		 													-				·				
→		後	リハビ	リなどによっ	って緩徐な	改善7	が見る	込まれる	5が、月	見通し	ノは現	時点	ては	立たない。									
(必ず記入	してくださ	*(v)																				1	
		-+																				-	
備		老																					

上記のとおり、診断します。

平成 24年 1月 30日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院

診療担当科名 脳神経外科

所 在 地 ○○市○○町○○

医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

<脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症) 2級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成22年7月2日」であるので、障害認定日は1年 6月後の平成24年1月2日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年1月18日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

- 傷病は「脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症)」であるので、⑩、⑩、⑩、⑩、⑩ 欄は必ず記載されていなければならない。
- なお、②欄には主な症状を詳しく記載してもらうことが必須である。

■認 定----

障害の程度は、閉眼での起立・立位保持が不可能であり、開眼での直線10m歩行が困難である。また、頭痛やめまいをはじめとする多様な症状のため、日常生活動作が一人でできてもやや不自由、又は一人でできるが非常に不自由な状態であり、外出も困難で労働能力はないことから、「日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの」に該当すると認められるので、2級15号と認定される。

脳背髄液減少症 3級の認定事例

本人の中立ての場「診療録で確認」ま

合けは

、それを聴取した年月日を記入してください。「本人の申立て」のどちらかを〇で闘み、

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

·			章	杏	の		状		鵔		(-	平成	23	4	12	月 20	日 現症))					
i i				運動の					右								左						
3	部		位	種類			助域(角					運動		100		可動域(1		-			筋力		
					強直肢位	自	動可動坡	他動可	動城	正常	やや減	半減	著波	消失	強直肢位	自動可動域	他動可動物	夏 正常	やや波	半波	著波	消失	
y C	Į .			屈曲	<u> </u>	-{·		ļ					i			Į	Į			ļ			
j W	肩	関	飾	伸展												 			·		Ţ		
. 関				内転				ļ					ļ										
節	<u> </u>			外転	ļ	-							 		<u> </u>			1	ļ		 		
可	肘	関	節	用 曲 曲	<u></u>			}					 -			ļ	ļ		-		ļ		
動	•			伸展		╀	<u></u>		_				<u> </u>						-	-			
域及	手	夷	節	背 屈												Ī		· 					
T \widehat{v}				屈曲	 	╁											 	╁			 -	ار	
運				伸展				ļ									 -	- 	- 	·	ļ		股関節形 値は次の
動	股	関	飾	内転		-														ļ	ļ		方ですか
筋力				外転		- 										 							1時阻断
7	ļ			屈 曲		╁┈			$\overline{}$									┪	 	 	├		2膝伸圈
	膝	関	節	伸展					∤-								 	+		ļ			
				背屈		\vdash									114,			-		 			
5	足	更	節	底 屈		}										}				·			
) <u>(8</u>				1424 1/121				<u> </u>	右						ļ	<u> </u>	左			<u> </u>			
•					上肢長	TE	腕囲前		下肢	; E	大服	91333	下版	11 TEE	上財長	上院团市		肢長	-k-1	退団	T = E	姐姐	
	四月	支長及	び四肢	甜	<u> </u>		NG ELLI BO	ID GEZZI	1 10	.,.	J\10	2141	1 /2	eш			1	100) \ u	e ku	1 1/2	e jui	
				_		_						O.M.		am.				Am.	ŀ				
(19)	ı				L	1	cm		_ 1 m	CID	できる	CDD 基金に	17	СЛ	cm		·(O) ~	CH	·I	cm	Ь	cm	
""	Ţ	د.د.	ent m	 }- } 	د د از د از د ا	s			• • •								· 1	該 当	する	5 \$2	异) [
				を使用した		× C	•			_	-							を下	欄に	12	入		
Ħ]	+	リ断し	てくださ	(1°			-	一人で	できる	が非ク	がに不	自由な	場合	こは		[Δ×]	して	くだ	さし	۸ .		
-پينر								L-	一人で	全くて	きない	場合	には・	•••••		• • • • • • • • • • •	-tx1 _					ノー	
常		A	常生	活動(乍		右		Ž	左			B	常	生活	動作			右	Т	左		
生	a つま	t	(新聞)	紙が引き抜けない	、程度)		0		(0	m	片足で	'立つ					(ΟΔ		Δ>	<	
	b 握	8	(丸め)	た週刊誌が引きむ	友けない程度)	0		(Ö	В	 座る	(Œ			でら・脚なげた	どし)			0			
活	c タオル	を絞る	(水を	きれる程度)			两手	(ΔC					(=	のような姿勢	を持続する)		1		U		4	
96L	d ひもを	結ぶ					両手	(ΔC		0	深くお	じぎ	吸敬礼	L)をする					ΔX		1	
動	6 ರ೮೮	食事をす	- る				ΟZ	7]	C	Δ	p	歩く	(屋内)							O			
作	f 顔を洗	j.	(顔に	手のひらをつける	5)		OZ	7	C	Δ	q	歩く	(母外)							ΟΔ			
"	g 用便の	処償をす	ろ (ズボ	ンの前のところに	こ手をやる)		0			0		立ち上	X 76.	ア支持	\$\$L (7)支持があれば ^{**} るがやや不白!	でき ウ支	持があれ	いまでき	_	支持がる	boT	
の	h 用便の	処置をす	る (尻の	ところに手をやる	5)		Ó		(0		T-0-T	.,,. 5	ক্ষ	685	るがやや不白	h õ	が非常に	2不自由		もできれ	とい	
Rade	i 上衣の	脊脱	(かぶ	りシャツを着て展	£<')		両手	(ΔC			階段を	· 秋太		toul (4)	手すりがあれば	まで ウチ	すりがま	onii c	<u>e</u> <u>-r</u>	平すり2	ばわつ	
障	j 上衣の	着脱	(ワイ	シャツを着てポタ	アンをとめる)	両手	(ΔC		_ ا	1200		757	লেক	きるがやや不り	3 da 5	が非常に	不自由		767	£1241	
害	k ズボン	の狩脱	(どの	ような姿勢でもよ	tv)		两手	(ΔC			階段を	ほりる			手すりがあれり	±r (∂)≇	ナラがま	bhlir	è ж	手すり:		
-	1 靴下を	腹く	(どの	ような姿勢でもよ	たい)		両手	(Δ					70-7	でいる	きるがやや不り]B) - 0	か非常に	こ不自由		てもで	きない	
の	平	1 翔	眼での起立	・立位保持の制	大態	2	開眼での	直線 1	0 m#	行の	状態					3 自覚症	状・他覚問	听見及	び検3	E所見	ļ.]	
ır.	衡	ア	可能であ	వ 。		7	まっすぐ歩	き通す。							-								
程	機	0	不安定で	ある。	- 1	9	多少伝倒し	そうにな	ったり	よろめ	いたりつ	うるがと	(うにか	歩き通う	r.								
度	能	ゥ	不可能で	ある。		ゥ	転倒あるい	は苦しく	よろめ	いて、	歩行を	り断せさ	るを得る	ない。	Į							Į	
20		肢補認	具	2 下肢補										左	紀の使用状況	兄について、	くわしく訂	己入して	てくだ	ŧ٧٠.			
補使	3 枚			4 松 葉		•	-μ/	ア 常時			寝まて	()使用	ı	;	8年プランドリー・	つかまり、	伝い歩き	・	71.12	z			
助用用状	9 *	椅子の値		6 歩 行	却			イ ときど		Ħ				'	<u> </u>		ш, оз			ه د د			
具況		見体的	に 伝ん	歩き			ſ.	ク 使用・	ন্ত ব													- 1	
_														1								\neg	
(2) E0	7世の精	仲・与	を かけい かんりゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	かの状態										1	食語障害が	ある場合はは	変当するも6	のを1つ	〇で 圏	んで	くださ	い。	
														- }								1	
頭痛、	上背部	痛、『	t気、倦怠	京感、易疲労	感、めま	١١,	歩行[別難、	耳鳴	りな	どの	症状/	か			常会話が誰が	聞いても理解	¥できる	•				
続いて	ている。	体調0	の悪い時に	ま、臥床して	過こすこ	<i>رح</i>	ひある。								会話 2 電	話による会話	が家族は理解	ずできる	が、他	人は理	解でき	żν.	
i															状g g	常会話が家族	は理解できる	が、他	人は理	解でき	ない。	1	
															25	常会話が誰が				ĺ		- 1	
																						- 1	
23			(補助用	具を使用しない	ハ状態で半	断し	てくたさ	(°,1)															
	の日常生																				_	- 1	
	及び労働! 、してくださ		体調の	良い時は軽化	ド栗 (簡単	官化	テスク	ソーク	/) は	可能	i C Ø	රෙන	、非	常に	疲れやすぐ	、、労働能	ジフは大幅	前に低	トして	C1/9	5.		
190 9 80.7																							
® _																							
多 (公才記入	してくださ	後	不明																			- 1	
(87.9 MEV		,																					
Ø ,,,,																							
備		考																					
1		1																				- 1	

上記のとおり、診断します。 平成 23 年 12 月 21 日

病院又は診療所の名称 〇 〇 病院

診療担当科名 脳神経外科

所 在 地 ○○市○○町○○

医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

<脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症) 3級>

(付 記)

- 本例の初診日は、平成 21年5月25日で、障害認定日当時の障害の状態が国年令別表及び厚年令別表第1に該当しなかったが、その後障害の程度が悪化したため事後重症として請求してきたものである。
- この診断書の障害の状態は、平成 23年 12月20日現症のもので、裁定請求日(平成24年1月0日)以前3月以内の診断書であるので、裁定請求日の障害の状態はこれで確認できる。
- 傷病は「脳脊髄液減少症(脳脊髄液漏出症)」であるので、⑩、⑩、⑩、⑩、⑩、⑩、儲は必ず記載されていなければならない。
- なお、②欄には主な症状を詳しく記載してもらうことが必須である。

■認 定一

障害の程度は、日常生活動作にそれほど支障はないが、閉眼での起立・立位保持が不安定で開眼での直線10m歩行に支障があり、平衡機能に障害がみられる。また、頭痛や上背部痛などの多様な症状のため、日常生活動作の大半が一人でできてもやや不自由な状態であり、労働能力が大幅に低下していることから、「労働が著しい制限を受けるか、又は労働に著しい制限を加えることを必要とする程度の障害を残すもの」に該当すると認められるので、3級12号と認定される。

慢性疲労症候群 1級の認定事例

他

-	(フリガナ) 氏 名	0	0	0	С)			生	年月日	(昭和) 平成	49 年	2 月	20 1	3生(37	稜) 核	刨	男·(女)	
	2- 55	住所地の郵便を		0 (郡市区	0	00	 国 オ	iz t			<u>.</u>						1
	障害の原因	慢性疲労	·····································						2	傷病の	^{発生年月}	日曜和	21	年	8月	頃日	診 探 録 本 人 の (年	で確認 申立て 月 日)	\ \ \
	となった	接江极力	近10×0+							①のため iの診療を			22	年	4 月	13 🛭		で確認 甲立て 月 日)	4
4	D傷病の原因 又は誘因初	不明 診年月日(昭	和·平成	年	月	日)		(5) (4)	语字 译客		なし		6 \$	往症			なし		
	D 傷病が治った(症 療 の効果が期待			傷犯	南が治~	っている	場合		·· 治·	った日	平成	年		月	日		確 推	認 定	
	含む。)かどうか。			傷邪	あが治~	っていな	い場合	*******	・・・ 症	犬のよくフ	よる見込	有	•	無	. 🥕	哪			
8	診断書作成医における初診初診年月日(昭和型の22年4	時所見	軽微な労	が作で つ	も響しく	く遷延化	する労化	作後疲劳	9等の:	多体症状	、思考さ	原腐、全身 」・集中力 頭炎を認め	・記録	8、関係 3力等(節痛、服 の低下、	党力、排 焦燥應	自動性頭 ※等の精	高、神	
9		その その	科を受討	② 投資】 上記3 も務果	東治療を 記診断に 犬は一流	E続ける □至る。 ⊈一退。	も症状が 以後、 以後、 と 平成23	が悪化し ビタミン 3年2月	ノ、上i ソC、i 引からi	記病名を 薬方薬を 務状悪化	疑われ内 処方し通	3日当院内 3科より当 5院加療を 5職の上治	3	[-1= 147	数 年! 洛(f年月日(回、月平	均 1回) _{日)}	
(U			高度の金属を認め	≧身倦が りほぼ終	急感、 多日臥 <i>園</i>	3疲労、 Fを要し -	軽微な気 、食事、	5作でも 入浴、	5薔し 用便、	く遷延化 着替え	する労作も介助を	F後疲労感 E要し、外	、遷延 出も医	化した	こ微熱、 犬態であ	全身の る。	筋痛・	場節	
		身長	147	cm	体重	現在 健康時	39 42	kg kg	握力	右左		kg kg 視	カー-		裸眼裸眼		矯正		
顧	計 測 (平成年月日)	視野	異常なし		調節 機能	罫	常なし		右耳	聴力レ	ベル dB	及良語音明 原	度 %	úÆ	最			mmHg	+
い臨床	測 定 丿	区分》	ta (II.st	23		1 8	5 P.) (8女	左耳	OX:391	dB	一つを〇で	% 1812.75	~ 4.2 ¹ -1-1,		* <u> </u>		mmlig	が関い
見等は、診療録	イ 軽度の症: ウ 歩行や身のまわり エ 身のまわり	のまわりのこと	とはできる のことはで	が、時 きるが、	こ少し介 、しばし	・助が必り ば介助が	要なことで 必要で	。 あり、朝 、日中の	圣労働 250%]	まできない 以上は就	ぃが、日 □ 末してお	り、自力で	上は能は屋外	配居し へのタ	上出等が		可能とな	ったもの	文字の欄は、記
15						用	*		<u>ო</u>	**	稍	B		יפקייו	<u> </u>				
塞厄	〕 血液 造血器	(平成	年			障 日現症	害)		の		钽	ķ		10 C	<u> </u>				ス
グト	1 臨床所見	<u> </u>	年	J]	日現症					年	月 日)		, c	D				入漏れが
基づいてお	3 臨床所見 (ア) 自覚症も 疲 失	犬 方 感	(無・:	有 - 等	を)	日現症2 血		查成血液	績)	随	D				入瀬わかない
基づいておかる	1 臨 床 所 見 (ア) 自覚症* 痰 失 動	大 方 感 悸	(無・:	有 ・ 3 有 ・ 3	多)	日現症2 血	液検末梢の赤	查成血液血系	績		年 ×万/ μ 0	月 日) (イ)	骨有	髄	用, 胞		×	75/μθ /υθ	入瀬れがない
基づいておかる	A 臨床所見 (ア)自覚症と 変 失動 息 り	犬 ゲ 感 悸 れ 熱	(無・: (無・: (無・:	有 ・ 3 有 ・ 3 有 ・ 3	多)	日現症2 血) 液 検 末 梢 fi ホ ホ ペマト	査 成 血 液 血 エ ロビン シ	續 求 變度 ト		年 ※万/# ⁰ g/d0 %	月 日) (イ)	骨有巨灰	髓核核芽	和脱球球		×	/µ0 %	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記	A 臨床所見 (ア)自覚症と 変 失動 息 り 発 関 節	よ 大き 感悸れ熱状 症 状	(無・:	有できる有有できる	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血	大 検 末 桁 郎 赤 へへ白	査 成 血 液 血 系 ロビン	續 求 寒 度 ト 状		年 ×万/μθ g/d0	月 日)	骨有巨亦顆	植枝枝	和脱球球球		×	/µl % %	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入し	(イ) 臨床所見 (大) 自被助息 形	よく 感悸れ熱状症 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(無・: (無・: (無・: (無・:	有有有有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血)液様が、その白顆単	査 施 血 ロック血粒 ままま	續 求 整 ト 求 求 求 求		年 ×万/48 g/d8 g/d8 /48 /48	月 日)	骨有巨麻顆リ病	髄 核 安 芽粒 ン 的	和心脏球球球胎			/µl % % %	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入して	は (ア)自変動 息発 関 の (イ) (イ) リンパ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(無・: (無・: (無・:	有有有有有有 有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血)液素赤へへ白顆単リ	査 液 ほどり ほん	續 求 鏖 卜 求 求 求 求		年 ×万/µl g/dl g/dl /µl /µl	月 日)	骨有巨麻顆リ病	髄 核 安 芽粒 ン 的	和心脏球球球胎	(E) 20	× p此(G/	/µl % % %	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入して	は (ア) 原 (ア) 原 (ア) 原 (ア) 原 (ア) 原 (東) 東) 東 (の) 見 が の の の の の の の の の の の の の の の の の の	感悸れ熱状症 腰向斑	(無 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	有有有有有有 有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血) 液 未赤へへ白顆単リ病血 検 ff モマト ン的	査 血血でつ血粒 リ小成 まごり 血粒 パ細	養 水 窓 ト 求 求 求 求 包 反		年 ×万/48 g/d8 g/d8 /48 /48 /48 /48 ×万/48	月 日)	骨有巨赤顆リ疥顆 血	随 接 ン 的 球 (C)	和		D比(G/	/µ8 % % % °/ E)	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入し	は (ア) 自変動息発 関島党 (イ) の (イ) の り 出	はない 一成 一成 一成 一成 で 一成 で 一成 で 一成 で 一成 で 一版 向	(無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無	有有有有有有 有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血) 液 未赤へへ白顆単リ病血網 様 1 モマト ン的 赤	査 加加ロク血粒 一小血液 びょう ピリーパ おままま 脂 科質	養 水盤卜状状状的反应		年 × 万/48 g/d8 /48 /48 /48 ·/00 × 万/48 °/00	月 日)	骨 有巨亦類リ済類 血出	を な が な が な が な が な が が が が が が が が が が	和解珠球球胞芽	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入してください。	は、 (ア) 原 (\Gamma) 原 (感悸れ熱状症 腰向斑腫腫	(無 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	有有有有有有 有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症2 血) 液 未赤へへ白顆単リ病血網 様 1 モマト ン的 赤	査 血血でつ血粒 リ小成 まごり 血粒 パ細	養 水盤卜状状状的反应	(平成	年 ×万/48 g/d8 g/d8 /48 /48 /48 /48 ×万/48	月 日)	育 有 互 赤 類 リ 病 類 血 出 A	核 メン的球 傾血 P	和	(D比(G/	/µ8 % % % °/ (E)	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入してください。	は、	以 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(((((((((((((((((((有有有有有有 有有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症 2 血 (ア)) 液 未赤へへ白顆単リ病血網 様 1 モマト ン的 赤	査 加加ロク血粒 一小血液 びょう ピリーパ おままま 脂 科質	養 		年 × 万/48 g/d8 /48 /48 /48 ·/00 × 万/48 °/00	月 日)	骨 有巨亦類リ済類 血出	核 メン的球 傾血 P	和解珠球球胞芽	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入瀬れがない
基づいておかる範囲で記入してください。 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	は、(ア) 原本 美田 一	以	() () () () () () () () () ()	有有有有有有 有有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症 2 血 (ア))液 末赤へへ白顆単リ病血網血	査 加血ロク血粒 / 小血経 CR	續	(平成	年 ×万/µl g/dl g/dl /µl /µl °/oo ×万/µl °/oo g/dl	月 日)	育 有 互 赤 類 リ 病 類 血 出 A	核 メン的球 傾血 P	和	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入漏れがない
基づいておかる範囲で記入してください。 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	は、 (ア) 原 (\Gamma) 原 (以	() () () () () () () () () ()	有有有有有有 有有有有有	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日現症 2 血 (ア))液 末赤へへ白顆単リ病血網血 の機 相 モマーン的 赤濱 他	査 加血ロク血粒 / 小血経 CR	續	(平成	年 ×万/µl g/dl g/dl /µl /µl °/oo ×万/µl °/oo g/dl	月 日)	育 有 互 赤 類 リ 病 類 血 出 A	核 メン的球 傾血 P	和	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入漏れ
基づいておかる範囲で記入してください。 3 4 4	は、(ア) 原 を (ア) 原 の (ア) 原 の (平	「一大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(((((((((((((((((((有有有有有有 有有有有有	審查審審審查審審查 審查審查審查 (1)	日現症 2 血 (ア))液 末赤へへ白顆単リ病血網血 の機 相 モマーン的 赤濱 他	査 加血ロク血粒 / 小血経 CR	續	(平成	年 ×万/µl g/dl g/dl /µl /µl °/oo ×万/µl °/oo g/dl	月 日)	育 有 互 赤 類 リ 病 類 血 出 A	核 メン的球 傾血 P	和	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入漏れがない
基づいておかる範囲で記入してください。 3 4 4	は、(ア) 原 を (ア) 原 の (ア	は、	() () () () () () () () () () () () () (有存有有有有 有有有有有	審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審審	日現症 2 血 (ア))液 末赤へへ白顆単リ病血網血 の機 相 モマーン的 赤濱 他	査 加血ロク血粒 / 小血経 CR	續	(平成	年 ×万/µl g/dl g/dl /µl /µl °/oo ×万/µl °/oo g/dl	月 日)	育 有 互 赤 類 リ 病 類 血 出 A	核 メン的球 傾血 P	和	(D比(G/ 法) ダ	/µ8 % % % °/ (E)	入漏れがない

⑪ 免疫機能障害	(平成	年 月	日現症)	
1 検査成績				2身体症状等
検査項目 検査日	単位・	• • •	平均值	①1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び
CD4陽性Tリンパ球数	/ul			易疲労感が月に7日以上ある (有・無)
	, ,	た連絡ナス市につだっ	is now m ż.	②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重減少がある (有・無)
(減症日以前の4週間以上の 紀入し、一番右の欄にはその	平均値を記入してく		沢田柏米で	③月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上続く (有・無)
冷 蓝日	単位			④1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上ある (有・無) ⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無)
全 查項目	146 .	·		(⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無) 以上ある
ヘモグロビン量	g/dl	-		⑥動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する (有無)
血小板数	万/此			⑦抗HIV療法による日常生活レ支障が生じる副作用がある
 	⊐Ł'-/mℓ			(①~⑥の症状を除く)(抗HIV療法を実施している場合) (有・無)
(減症日以前の4週間以上の 記入してください。)	間隔をおいて実施し	た連続する直近2回の	検査結果を	③生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である (有・無)
auxo (v.cev ;)				③1年以内に口腔内カンジダ症、帯状疱疹、単純ヘルベスウイルス感染症
				伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある (有・無)
	11 m			⑩医学的理由により抗HIV療法ができない状態である (はい・いいえ)
3 現在持続している副				✓ 4 エイズ発症の既往の有無 5 回復不能なエイズ合併症のため 介助なくしては日常生活がほと
□ 代謝異常 □ リポアトロ: □ その他(薬剤名、服薬*)			押障害 凵 神経障害	んど不可能な状態である。
しての他(発列名、放発社	八九次 い回げられ	V24\(UE)		
		,		有・無はい・いいえ
1		/		[月] · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
6 肝炎の状況 (口 募	『剤性 ・□	B型 口 C類)) (肝炎を発症している場合は必ず記載してください。)
(1) 検査所見			(2) 臨床	所見
検査項目	単位・		・ 食道!	脊脈瘤 無 ・ 有 (内視鏡による 、X線造影による、 その他())
血清アルブミ			 i	更変無有(代償性、非代償性)
AST (GOZ			無 無	胞 紙 無 · 有
ALT (GPT				脳 症 無 有 (1年以内に発症したことがある)
プロトロンビン時間	/ %		腹	水 無 · 有 · 著
一				管出血 無・有(1年以内に発症したことがある) ごン値の上昇をきたす薬剤の使用 無・・有)
<u> </u>			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
⑤ その他の障害	(平成 23	年 11 月	5 日現症)	
1 症 状				2 検 査 成 績
(1) 自覚症状				(1) 血液·生化学検查
 高度の全身倦怠感、易	病労、軽微力	で労作でも築し。	(遷延化する癖	検査目 単位 施設基準値 ・・・・・・
労感、咽頭痛、四肢 治	感、リンパ質	7痛、全身の筋症	る及び関節痛、	検査項目
筋脱力、拍動性頭痛、	惡心、下痢、	動悸、ふらつる	き等の身体症状、	
思考力・集中力・記録 入眠困難、浅眠、中途	は	ar、抑リンタン 電響を認める。	J ペ 団 UJ ↑簡↑甲扎上次入、	ヘマトクリット %
		, · - •		血清総蛋白 g/de
				血清アルブミン g/dℓ
(2) 他覚所見		h-u		
微熱、咽頭痛、頚部し	トップペを対象の原 本	が恐れる		(2) その他の検査成績
,他们是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	・ノ・はいか変がれて	のの人のものこ		一般臨床検査の異常なし
- 446 PP 231				
3 人工職器等	0 4 4	准 砂左 0 0	स्ति का व	3 (A) 自己消尼尔曼哈拉尔 無 . 去 mbb 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
(1)人工肛門の造剤 	及 無·有	造設年月日: 閉鎖年月日:		3 (4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 <u> </u>
(2) 尿路変更多	所 無·有	治数年月日: 造設年月日:		日 終了年月日: 平成 年 月 日 3(5) 完全尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日)
	- 544 .13	閉鎖生月日:		3
(3) 新膀胱造1	是_無一有	手術年月日:		- 日 (6)その他の手術 無・有 ()平成 年 月 日
16 現合はの日常生芸芸				
現症時の日常生活活 動能力及び労働能力	労務不能	、身辺のことで	も介助を頻々に要	要し、終日臥床状態。
(必ず記入してください)				
10				
予 後	不明			
(必ず記入してください)				
(B)				
備 考				
上記のとおり、診断し		平 2	3 年 11 月	5 B
	· ·			and the second second
病院又は診療剤			- "- "	診療担当科名 内科
		00市 00円		医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

<慢性疲労症候群 1級>

(付 記)

〇 本例は、初診日が「平成 22 年4月13日」であるので、障害認定日は 1 年6月後の平成23年10月13日となる。

この診断書の障害の状態は、平成23年11月5日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「慢性疲労症候群」であるので、⑩、⑩、⑩欄は必ず記載されてい なければならない。

■認 定一

障害の程度は、休職し治療に専念していても、高度の全身倦怠感、易疲労、軽微な労作でも著しく遷延化する疲労感、咽頭痛などの症状が強く続いており終日臥床状態となっており、一般状態区分は「身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られるもの」となっている。また、平成3年(平成7年一部改変)旧厚生省研究班の重症度分類では、PS9に相当することから、「日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの」に該当すると認められるので、1級9号と認定される。

慢性疲労症候群 2級の認定事例

æ ∵,	<u>:</u>]		
τ			
紀で)回て)	42-42	本人の申立ての場合は	「診療録で確認」また
		本人の申立ての場合は、それを聴取した年月日を記入してください。	「診療縁で確認」または「本人の申立て」のどちらかを○で囲み、
回)		してください。	〇で囮み、
Hg			
Hg	(お願い)太文字の欄は		
)	`		
	聞れがないように記入し		
	7		

	(フリガナ) 氏 名	0	0	0	0			生年月日	昭和 平成	61年1	1月1	1 日生	(24歳)	性別(勇 ·	女
	住 所	住所地の町	ののの	0 0	郡市区	0	00	町区 村								
	① 障害の原因 となった 傷病名								発生年月 E め初めて医	昭和	22 年		月 27	日本人年	月 録です	τ (γ 2 (γ)
	(8) (7) 4)	不明					⑤既在	師の診療	を受けた日	ŒD.	22 年 ⑥	- <i>'</i>	月 27	(年	の中)	なて 日)
		初診年月日	(昭和・平成	年	目)		障害		なし 		既往	症		なし	- An	
1 7	傷病が治った 療 の効果が期	待できない		傷病が	治ってい	5場合		治った日	平成	年	月		日		権 認	
	含む。)かどうた	120		傷病が	治ってい	よい場合		症状のよく	なる見込	有	• #	.	不明	D		
(8	B 診断書作成 における初 初診年月日	疲労感、(頚部有痛(散熱、筋厚 生リンパ質	1痛、脱2 7腫脹を3	り感、関節が 忍めた。	1、頭痛、7	下眠、思考	含力低下	、集中	ウカの低	下などの	定状が				
le	<u>(昭和♥₽M 22年</u> 9) 現在までの治		安静療養	李指潭1	. <i>L</i> AS.	ン剤や抗ス		 亢うつ剤の粉		 5蓮幼録	診療	回数	年間	12回、月	平均	10
]	容、期間、経過	量、その		試みるも	症状は一i PS8に	隹一退であ		100 2 /100st	31T2CV 13C7	J 34C (* \$4V	1/1/	手術名()
	① 現状の症状		*****	- 434>	*** (\$)		- (=) +++ = -				歴	手術年月	月 (<u> </u>	1)
_	参考とな		激しい級	対感、た				ま状が続いて			1					
		身長	169	cm 体	重 現在 健康時	67 58	ke to	力 左		へkg 視力 kg	右眼左眼			播		
顧し	計 測	(1) 視野	異常なし	, M		異常なし	#	下耳 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	ノベル 最I	是語音明瞭点		庭	最高			mHg _
	湖 定			188	16		左	耳	dB	9	6		最小		m	mHg #
	ア 無症状 イ 軽度の ウ 歩行や 子 身のま	で社会活動 症状があり、 身のまわりの わりのある程	表 (平成 ができ、制限 肉体労働は ことはできる 度のことはで できず、常にが	を受けるこ 引限を受け が、時に少 きるが、し	となく、発源 るが歩行、 し介助が必 ばしば介助	前と同等 軽労働や が要なことも が必要で、	にふるまだ 空業はでも あり、軽9 日中の5	きるもの 労働はできな 0%以上は朝	例えば、軽い いが、日中の は床しており、	小家事、事 の50%以」 自力では	務など とは起居 :屋外へ	してい		ぼ不可能と	なったも	大文字の
録に						書	<i>o</i>	状	態	,						加入
基で			战 年	月	日現物		7/C -44- 2/C	tz (TTT =-Ih	/ - : -							iii
いて	(ア) 自覚症					1. 液検		責 〔平成	年 月	•						かな
おかり	疲 動	労 感 悸		有・著) 有・著)	(7)	末梢血 赤	正液血 球		×万/山l	(1) ·		髄 €細丿	ia.		×ガ/ਘ	\V.
る範囲	.0.	切 れ	(無・	有・蓄)		ヘモグ	m 127 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	who.							/µ0	うに
四	発	熱						X.	g/dℓ		巨		脒			182
で	[36] E			何・著) 何・著)		ヘマト	クリット	X.	%	/	赤	芽	宋		% %	1 1
記	3 9	施 	(無・>	何 ・ 著) 有 ・ 著) 有 ・ 著)	and the second	ヘマト 白 類	クリット 血 球 粒 球	Ř.			が類リン	芽り粒パリ	球 球 球		% % %	<u>ک</u>
記しし	易 (イ) 他 覚 所	ñ 症 状 3 染 症 5 見	(無· /	有・著)		単 知 シマト	クリット 血 球 粒 球 球	Ř.	% /ue /ue	/	新類 リ 病	芽り粒パリ	球 球 球 饱) l. o. th. (c	% % °/«	入してく
記入して	易 (イ) 他 覚 所 リン/	施 	(無・ を	有・著)	To the second se	ヘマトの観り	クリット 血 球 粒 球	ĸ	% /µl /µl		新類 リ 病	芽り粒パリ	球 球 球 饱)との比(G	% % °/«	入してくださ
記入してくださ	易 (イ) 他 覚 所 リンパ 出 』 紫	症 装症 染 症で 染 腫 順原 便 斑	(無・? (無・? (無・?	有 ・ 著) 有 ・ 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O	へ白顆単リ病血マージン的	ク血粒 パ細リン球球球球胞板	*	% /µl /µl /µl °/ × 75 /µl	()) }	赤顎リ病類 の かい 的 和 血	芽 対 パ 細 ポ (G)赤	求 球 球 饱 芽球(E)		% % /« /E)	L
で記入してください。	易 (イ) 他 覚 所 リン/ 出 禁 肝	作 & 見 が 順 で 趣 に と で い で 便 で 順 向 斑 腫	(無 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	育有 有有 有有有 有有 有有 有有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	- American - American	へ白顆単リ病血網マン的がある。	ク血粒 パ細 サッカ球球球球胞板数	×	/µl /µl /µl /wl ×55/µl °/•	()) }	赤顎リ病類 出出出 の	芽粒パ細パ細球(G)赤	t t t t t t t t t t t t t t t t t t t	法)	% % °/" ·/E)	してください
記入してください。	易 (イ) 他 覚 所 リンパ 出 』 紫	作 & 兄 郎 便 症 染 し 節 傾 状 症 服 向 斑 腫 腫	(無 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	有 ・ 著) 有 ・ 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著		へ白顆単リ病血網マン的がある。	ク血粒 パ細リン球球球球胞板		% /µl /µl /µl °/ × 75 /µl	· 	赤顎リ病類 血出 A P	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	球球球跑芽球(E)	法)	% % /« /E)	してください
記入してください。	易で (イ) 他 リンノ 出 紫 肝 脾	作 & 兄 郎 便 症 染 し 節 傾 状 症 服 向 斑 腫 腫	(無 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	育有 有有 有有有 有有 有有 有有 有有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	(±)	へ白顆単リ病血網マン的がある。	ク血粒 パ細 サッカ球球球球胞板数	校査値	/µl /µl /µl /wl ×55/µl °/•	· 	赤顎リ病類 出出出 の	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	t t t t t t t t t t t t t t t t t t t	法)	% % °/" ·/E)	してください
記入してください。	場で (イ) 他 覚 が リンノ 出 紫 肝 神血の回数 の で の で の で の の の の の の の の の の の の の	お食に V ロ	(無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2	有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有		へ白顆単リ病血網血 のかか かかが から 赤海 他	ク血粒 パ細 珠蚕 CRP	校査値	% /µl /µl /wl × 75 /µl × 76 /wl g/dl	· 	赤顎リ病類 血出 A P	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	球球球跑芽球(E)	法)	% % °/" ·/E)	してください
記入してください。	場で (イ) 他 リンノ 出 紫 肝 脾 3 輸血の回 の で 成 因 と で は 経 は と と と と と り と り と り と り と り の し の し の し の し の し の し の し の し の し の	おきますおきますなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり<	(無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2	有有 · 著) · 有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有有		へ白顆単リ病血網血が	ク血粒 パ細 珠蚕 CRP	校査値	% /µl /µl /wl × 75 /µl × 76 /wl g/dl	· 	赤顎リ病類 血出 A P	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	球球球跑芽球(E)	法)	% % °/" ·/E)	してください
記入してください。	場で (イ) 他 覚が リンパ 出 紫 肝 脚 の の (平成 子 型) (平成 子 型)	お食に V	(無・2 (無・2 (無・2 (無・2 (無・2 (無・2 (無・2 で) (無・2 (無・2 (無・2 (無・2 () (無・2 () () () () () () () () () () () () ()	有有 · 著))) · 有有有有 · · 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著		へ白顆単リ病血網血 のかか かかが から 赤海 他	ク血粒 パ細 珠蚕 CRP	校査値	% /µl /µl /wl × 75 /µl × 76 /wl g/dl	· 	赤顎リ病類 血出 A P	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	球球球跑芽球(E)	法)	% % °/" ·/E)	してください
記入してください。	場所(イ) 他リン/リ出紫肝中面のの(平成本の年期(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の(平成本の<	たます。 京の 京の 京の の の の の の の の の の の の の の	(無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2 (無· 2	有有 ・ 著))))) (有有有有) ・ 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著		へ白顆単リ病血網血 のかか かかが から 赤海 他	ク血粒 パ細 珠蚕 CRP	校査値	% /µl /µl /wl × 75 /µl × 76 /wl g/dl	· 	赤顎リ病類 血出 A P	芽粒パ細様(G)赤 は(G)赤	球球球跑芽球(E)	法)	% % °/" ·/E)	してください

(1) 免疫機能障害	(平成	年 月	日現症)	
1 検査成績				2 身 体 症 状 等
検査項目 検査日	単位・	• • •	平均值	①1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び
CD4陽性Tリンパ球数	/μl			易疲労感が月に7日以上ある (有・無)
(減銀月11年の4週間日上の間	[漢をおいて寒節]。)	た連絡する商近2回の絵	次款県を	②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重減少がある (有・無) ③月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上続く (有・無)
「減症日以前の4週間以上の抑 記入し、一番右の欄にはその知	7均値を記入してくた	、、、、)		②1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上ある (有・無)
検査項目 検査日	単位 ・	• [⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無)
白血球数	/μθ			以上ある
	g/dl			⑥動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する (有・無)
	5/μl	· <u>- · · </u>		⑦抗HIV療法による日常生活レ支障が生じる副作用がある
HIVーRNA量 コ (減症日以前の4週間以上の間	ヒー/me 隔をおいて実施し/	た連続する直近2回の捨	市結集を	(①~⑥の症状を除く)(抗HIV療法を実施している場合) (有・無) ③生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である (有・無)
紀入してください。)				②1年以内に口腔内カンジグ症、褚状疱疹、単純ヘルベスウイルス感染症
				伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある (有・無)
				⑩医学的理由により抗HIV療法ができない状態である (はい・いいえ)
3 現在持続している副作			/.	4 エイズ発症の既往の有無 5 回復不能なエイズ合併症のため
□ 代謝異常 □ リポアトロフ □ その他(薬剤名、服薬状			障害 🗆 神経障害	テープ かかなくしては日常生活がほと んど不可能な状態である。
日での他(泉州名、版泉仏	のない いかけられる	21(VL)		
		/		有・無 はい・ いいえ
L		/_		J
6 肝炎の状況 (口薬 (1) 検査所見	剤性・口	B型·□C型	・ □ その他((2) 臨床原)) (肝炎を発症している場合は必ず記載してください。) 所見
検査日	単位 .	<u> </u>	7	
検査項目 血清アルブミン				静脈瘤 無 ・ 有 (内視鏡による、X線造影による、その他())
AST (GO2)				更 変 無 · 有 (代償性 、 非代償性) 胞 癌 無 · 有
ALT (GPT)				脳 症 無 有 (1年以内に発症したことがある)
プロトロンビン			腹	水無・有・著
時間 総ビリルビン(※)	延長秒 mg/dℓ		_	皆出血 無 ・ 有 (1年以内に発症したことがある) ごン値の上昇をきたす薬剤の使用 無 ・ 有)
	##8/ UE		(% 69706	- グログエ外をさたり発剤の使用 無 相)
⑤ その他の障害	(平成 24	年 2 月 6	日現症)	
1症状				2 検 査 成 績
(1) 自覚症状				(1) 血液·生化学検査
高度の全身倦怠感、易	疲労、軽度の	労作でも著しく	蔓延化する疲	検査項目 単位 施設基準値 · · · · ·
労感、咽頭痛、胸腰部 頭重感等の身体症状、	・四肢を中心 思考力、褒中	とした筋痛、筋 力、記銘力低下	个快感、頭痛、 森の矯神症状、	赤血球数 万/40
入眠困難、浅眠、中途	覚醒、熟睡感	の欠如、日中の	眠気等の睡眠	ヘモグロビン濃度 g/dℓ ヘマトクリット %
障害を認める。				血清総蛋白 g/dℓ
				血清アルブミン g/de
(2) 他 覚 所 見				
微熱、頚部リンパ節腫	肥丸 認みる			(2) その他の検査成績
「	はいいないできる。			一般臨床検査異常なし
3 人工臟器等				
(1) 人工肛門の造設	無·有			日 (4) 自己導尿の常時施行 無・有
(の) 足吸が質能	4m	閉鎖年月日: 平		日 終了年月日: 平成 年 月 日 日 - (8) 完全尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日)
(2) 尿路変更術	無・有	遊設年月日: 平 閉鎖 <u>年月日:</u> 平		日(5) 完全尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日) 日
(3) 新膀胱造盤	有	手術年月日: 平		
® 現症時の日常生活活	終日様がナ	ブ1ヶ月の70%	あり、残りの3	30%もかろうじて坐位で過ごし、就労不能である。食事、用便、猶替えに介
動能力及び労働能力				かりのののフラウで主意ではこう、
(必ず記入してください)				
(f) 予 後	不明			
(必ず記入してください)				
(8)				
備 考	l 			
上記のとおり、診断しま	 す。	平成 24	4年2月6	5 目
病院又は診療所		0 0 病	· , _ , , · · · · · · · · · · · · · · ·	診療担当科名 内科
所 在				医師氏名 〇 〇 〇 印
121 1E	PE '		55	

<慢性疲労症候群 2級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成22年7月27日」であるので、障害認定日は1 年6月後の平成24年1月27日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年2月6日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「慢性疲労症候群」であるので、⑫、⑮、⑯欄は必ず記載されてい なければならない。

■認 定一

障害の程度は、治療を行っても、高度の全身倦怠感や微熱、筋肉痛などの症状が続いており、日中の大半は横になっていることが多く一般状態区分は「身のまわりのある程度のことはできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上は就床しており、自力では屋外への外出等がほぼ不可能となったもの」となっている。また、平成3年(平成7年一部改変)旧厚生省研究班の重症度分類では、PS8に相当することから、「日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの」に該当すると認められるので、2級15号と認定される。

慢性疲労症候群 3級の認定事例

ſ	(フリン	ガナ)	0 0	000	00					<i></i>		图和									1
	氏		0	0	0	С	<u> </u>			生	年月日	平成	47	4 10	0月1	日生	(38 億)	性別	男	·(女)	
	住	所(住所地の		0 ()	郡市 区	0	00	日本	r区 t										
Ī	① 障害 <i>0</i>	の原因								2	傷病の	発生年	月日	昭和	22 年	- 1	月頃	日本	療験		K
		った	慢性疲	労症候群							①のため		医	昭和	22 年	. 2	月 28	日本	年の歴史録り	月) で強 (20) 単立 て	,
	④傷病(不明						⑤既7		の診療を			40	7 6		7 20		年 月		ľ
Į			加診年月日	(昭和・平成	年_	月	日)		障額						既往	症		なし			
	傷病が		定状が固況 寺できない		傷	房が治-	っている	場合		治-	った日	平成		年	月		Ħ			認定	
		かどうか		10 (72.5 %	傷犯	 あが治-	っていな	い場合		症》	犬のよく;	なる見む	 入	有	• #		不明				
}		所書作成[医格格酮		19971					,								<u></u>			
		おける初診				, 慢性的	的な疲労	憾、頭雅	第、脚節 的	氡、 {	散熱、脱	力、思	考力・	集中た]低下、	抑うつ	、意欲	(低下、‡	勿忘れ	な	ĺ
		年月日		どを認め	න් る 。																
}	9	<u> </u>		(5) K 25 7 (5)	ist its	क्रिकंट १	ノカント	/文 空のサ	7 55名2		見からなった。		を寄し、マ	-+=\	診療	回数	年間	12回、	月平均	1回	
	容、期	までの治療	、その	り、一	焦一退(の経過で	である。	/剤等の技 当する。	R J ŒIJ.	וסינ	窓は下口の今	液力は	ROTOIC	. ฮจ	手術	手術名()	
}		きとなる事														手術年月		年	月	日)	
		犬の症状、 考となる		疲労感、をきた			≢鳴り、	證明、於	充力、頭射	看、生	物忘れ、	思考力	・築中	力低下	ふとの	症状が	あり、	日常生活	でを	障	i
	①		身長			体 直	現在	45	kg #	砂	右		ki	- 視力	右眼		• - •	رتزا	新正		
(t)	計	測		163	cm		健康時	54	kg		を上腹カレ		根良語	音明瞭@	左眼	裸眼	投商	,	落正	minHg	
難い	(平成 年		視野	異常な	U	調節機能	9	異常なし	<u> </u>	耳		dВ		9	-	.庄	最小			mmHg	1
) 臨床	. m 12 —	般 状 !	/	· 表(平成	t 23	年 9	<u>l</u> 9月	17日)		<u>E</u> 耳 する	のを選ん	dB ノでどれえ	ړر—د¦			さい。)					解し
所見	ア 無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等にふるまえるもの												ンメン								
等は	_			网体労働は うことはできる								列えば、 いが、日			•	してい	るもの				文字の
脸				度のことはて													等がほ	ま不可能	となっ	たもの	橋
療録	<u> </u>	身のまれ	ラックことも [*]	できず、常に	クト切を!	必要とし	、終日8	おおかり	いられ、活の		地田かま		態	関がに	限りれる	560)			, <u>-</u>	******	Ñ
に基	13 血 液	友 造血器	(平)	成 年)	3	日現近	Ē)	··· , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,									<u> </u>			ノ海
づいて		床 所 自覚症		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			2 m	液検	査 成 紀	資	(平成	年	月	日)		······					わが
しわか	())	疲	労 慇	(無・		,	(T)	末梢血						(1) 1		随	/				ない
る範		動 息	悸 切 れ	(無・ (無・					血 球 ロビン潑!	变		×万/』 g/c			有核色	按細り	RET 以		× 75	'/μθ /μθ	ように記
囲で		発	熱	(無・					・クリット 血 球				%		_		敦			%	K
記			症 状染 症	(無・					血 球粒 球			/s				粒パ	录 求			% %	スし
집	(イ)	他覚所		/ Arre.	+	et- \		カカン	球パ球				%			細り		V 1. m.16.		°/10	してくたさい
てく		-	節腫脹 傾 向	(無・ (無・	• •				細胞			/! ()	, 16		粮和加	K(G <i>)7</i> 75:	牙球(上	こ)との比((G/ E	.)	たさ
くださ		紫	斑	(無・	,-	,			小板			×Б/µ		(ウ) は	н ф (m /				V.
\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\		肝 脾	腫	(無・ (無・					血球级			°/				,時 『 T T		法) 望値 秒)	分秒		
Ī	3 輸血	iの回数及	び総量								Asset 1-tr	-0	-	JJ-en-t	t-tan Istr	1 44-	de Ide	Ī			
		圓	計			me	(±)	その他	CRP		検査値	LD	H	施設去	E-11= 114	083	查值				
-	(平)	成 年 因子製剤	月 日~		<u> </u>	(首)	6	その他	の所	算.											
	- ///						~	, ,	- 12.												
- 1						m€									_						
-	(平5	回	計	平成 年	月	me 8)															
new Average in the Control of the Co		回 戏 年 1幹細胞移	計月 日~		月																
		回 或 年 1幹細胞移 5 有	月旬~		月 日)																

① 免疫機能障害	(平成	年 月	日現症)	
1 検査成績				2 身 体 症 状 等
検査項目 検査日	単位・		平均值	①1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び
CD4陽性Tリンパ球数	1,10			易疲労感が月に7日以上ある (有・無)
	/μθ			②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重減少がある (有・無)
(減経日以前の4週間以上の) 記入し 一番右の欄にはその)	II関をおいて実施し P均値を記入して	こた連続する直近2回の ください。)	の検査結果を	③月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上続く (有 無)
				④1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上ある (有・無)
檢查項目 檢查日	712	• •		⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無)
白血球数	/μθ			以上ある
·	g/dℓ			⑥動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する (有・無)
	15/με 15-/πε			⑦抗HIV療法による日常生活レ支障が生じる副作用がある (①~⑥の症状を除く)(抗HIV療法を実施している場合) (有・無)
(減症日以前の4週間以上の)	*	た連続する直近2回の)検査結果を	(①~⑤)の症状を除くしれ日1V療法を実施している場合) (有・無) ⑥生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である (有・無)
紀入してください。)				⑨1年以内に口腔内カンジグ症、帯状疱疹、単純ヘルペスウイルス破染症
				伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある (有・無)
				⑩医学的理由により抗HIV療法ができない状態である (はい・いいえ)
3 現在持続している副作	作用の状況			4 エイズ発症の既往の有無 5 回復不能なエイズ合併症のため
□ 代謝異常 □ リポアトロフ	'ィー 🗆 肝障智	り 野障客 □ 程	f神障害 🗆 神経障害	か助なくしては日常生活がほと んど不可能な状態である。
□ その他(薬剤名、服薬状	況及び副作用	の状況)		んと不可能ながほどのる。
)
				有・無はい・いいえ
6 肝炎の状況 (口薬	剤性・口	B型 / □ C型	型 ・ □ その他()) (肝炎を発症している場合は必ず記載してください。)
(1) 検査所見	لبسا سلمان ر		(2) 臨床	·
検査	単位			
検査項目 血清アルブミン				争脈瘤 無 有 (内視鏡による、X線造影による、その他())
皿 育 / ルフミン AST (GOP)				更 変 無 ・ 有 (・代償性 、 非代償性) 胞 癌 無 ・ 有
ALT (GPT)				胞 遜 無 ・ 有 脳 症 無 ・ 有 (1年以内に発症したことがある)
プロトセンビン			腹	水 無 有 · 著
時間	延長秒		消化管	・ 有 (1年以内に発症したことがある)
総ビリルビン(※)	mg/dℓ		(※ ビリルヒ	「ン値の上昇をきたす薬剤の使用 無 ・ 有)
⑤ その他の障害	(巫成 23	3年9月	17 日穏症)	
1症状	1784 20	, > /1	i i signe)	2 検 査 成 績
(1) 自覚症状				(1) 血液·生化学検査
激しい疲労感、記憶力	低下、脱力、 第1888年第1888年	集中力低下、	睡眠障害、物	検査項目 単位 施設基準値 · · · · · ·
忘れ、耳鳴り、微熱、	肋沟涌、盆中	は、 頭痛を認め	ත .	赤血球数 万/40
				ヘモグロビン濃度 g/dℓ ヘマトクリット %
				血清総蛋白 g/dl
				血消アルブミン g/de
70) 41 88 EC E				
(2) 他覚所見				(2) その他の検査成績
頚部リンパ節の腫大(軽度の圧痛を	あり)		A C. Marchaelle
				一般検査上、特記すべき所見なし
:				
3人工職器等				
(1)人工肛門の造設	無・有	遊設年月日:	平成 年 月 日	3 (4) 自己海尿の常時施行 無 ・ 有
		閉鎖年月日:		
(2) 尿路変更術	無・有	造設年月日:	平成 年 月	1(3) 完全尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日)
		閉鎖年且日		to be a second of the second o
(3) 新膀胱造設	—無一有	手術年月日:	平成 年 月 日	1 (6)その他の手術 無・有()平成 年 月 日
(6)				
⁽¹⁰⁾ 現症時の日常生活活	激しい機	性的な疲労感σ)ため、社会生活に	: 支障をきたしているが、日常生活については、介助なしで身の回りのことは
動能力及び労働能力				数日は休息が必要である。
(必ず記入してください)	<u> </u>			
(I) 3	77-00			
予 後 (必ず記入してください)	不明			
18				
備考	1			
	1			
上記のとおり、診断しま	す。	平成 2	23年9月1	7 g
病院又は診療所	の名称	0 0 #	秀 院	診療担当科名 内科
			** *	
所 在	地		ii OO	医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

<慢性疲労症候群 3級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成 22年2月28日」であるので、障害認定日は 1 年6月後の平成23年8月28日となる。

この診断書の障害の状態は、平成 23年9月17日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「慢性疲労症候群」であるので、⑩、⑩、⑩欄は必ず記載されてい なければならない。

■認 定——

障害の程度は、治療を行っても、激しい疲労感、記憶力低下、脱力、微熱、 頚部リンパ節の腫大などの症状が続き、軽作業は可能であるが、週に数日は休 息が必要とされており、一般状態区分は「歩行や身のまわりのことはできるが、 時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上は 起居しているもの」となっている。また、平成3年(平成7年一部改変)旧厚 生省研究班の重症度分類では、PS5に相当することから、「労働が著しい制限 を受けるか、又は労働に著しい制限を加えることを必要とする程度の障害を残 すもの」に該当すると認められるので、3級12号と認定される。